
異世界で～す。

雄輔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界で～す。

【著者】

20089D

【作者名】

雄輔

【あらすじ】

題名通りだぜ。と思つきや違つたりしそうな予感もないこともないよ。

前はわりと長じて題詠だったのに、字数が多くて駄目だった。（前書き）

ああ～。

前はもつと長い題名だったのに、字数が多くて駄目だった。

「努力すればどうにかなるよ。」

「いつもそればつかじやん。たいして変わんないし。努力したつて、無理なもんは無理だよ。」

「でも、努力すればいつか報われるよ。」

「こいつはいつも俺にこう言う。

確かにこいつはいい奴だ。

でも、こいつにこれを少し言わるとむかつく。

「分かった。分かった。ある程度は頑張るよ。」

「ああ。頑張ることはいいことだよ。」

「ただいま。」

「おかえり。剣刀荷物届いてるよ。」

「分かった。」

荷物つて何だろう？

部屋に入つて見ると、小包があつた。宛名がなかつた。

不思議に思つたが、中を開けてみた。中には……変なスイッチが入つていた。よく見ると紙もあつた。

紙を見ると、こう書いてあつた。

「これが届いた者に言つ。

「これのスイッチは、異世界への扉だ。

「これを押せば、異世界に行ける。

異世界には、どんな願いもかなえられる宝石がある。

但し、一度異世界に行つたら、宝石を獲得し、願いを叶えるま

で帰れない。

この小包は、一週間後消える。

その間に決めるがよい。

最後に健闘を祈る。

と書いてあつた。

途中で破り捨てたかつたが止めた。

まあ、一週間無視すれば、消えるからいいだろ、
寝る。

つと、その前に。
俺の名前は鈴木 嘴刀。
よろしく。

前はもっと長い題名だったのに、字数が多くて駄目だった。（後書き）

ああ～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0089d/>

異世界で～す。

2010年10月28日03時06分発行